

第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

報告書資料 復興支援－10

学校名・団体名	仙台市立八本松小学校
HPアドレス	<a href="http://www.sendai-c.ed.jp/~hatihon8/">http://www.sendai-c.ed.jp/~hatihon8/</a>
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	思考を深めながら，探究する喜びを味わう児童の育成
<p>〈活動・研究の意義，目的〉</p> <p>各教科・領域の指導計画に対話型哲学教育「探究の対話」を取り入れることにより，対話を通して思考を深めながら探究する喜びを味わう児童を育成し，教育復興に不可欠である仙台の「生き方教育」を開発する。</p>	

東日本大震災の発生から5年が過ぎようとしている。被災した仙台の子どもたちが「心結ぶ未来社会」を構築するために必要な資質・能力は、何事にも主体的に取り組もうとする意欲、多様性を尊重する態度、他者と協働するチームワーク、そしてコミュニケーション力であると言える。震災から学んだことを基に、「命を大切にし、仲間を思いやり、自分から社会に関わろうとする力を身に付けさせること」を目指して、新しい学びの形を八本松小から発信し、仙台の教育復興に寄与したいと考えた。

本校では、平成25年11月から、子どもたちが自分たちで問いを立て、その答えを見つけ出すために集団で対話を行い、互いに学び合うという「子どもの哲学(探求の対話 philosophy for children=p4c)」を、試行的に教科指導のカリキュラムに組み入れながら、児童の思考力や探究心、コミュニケーション能力を育ててきた。今年度は更に校内における研究を推進し、「探求の対話(p4c)」の知識とノウハウを蓄積することより、仙台市の教育復興基本計画が目指す「時代の変化を受け止め、未来を切り開く力」の土台となる教育復興プログラム「対話を通じた生き方教育」を探っていくことにした。

1 「思考を深めながら探求する喜びを味わう児童の育成」について、講師陣から指導・助言をいただき、学校教育における対話型哲学教育「探求の対話(p4c)」の可能性を見いだす。

(1) 平成27年7月 p4c研修会 宮城教育大学 教授 田端健人先生 ご講話

演題『コミュニティの対話と思考の進展「問い」をめぐるジャクソン博士の理論と八本松小学校の実践』

①コミュニティにおける探求の進展には、「多様な意見の乱立」「他の意見への共感や反発」「出発点よりも深まった地点での暫定的なよりよい考え」の3つのタイプがある。

②6年生国語科「海のいのち」の事例では、多様な解釈に一定の「結び目」をつくり、多くの子どもの共感を呼ぶような意見が出たが、「それって本当？」という教師の問いかけが、子どもの思考と対話を刺激することにつながっていた。

(2) 平成27年7月 p4c研修会 新潟大学 准教授 豊田光世先生

提案授業 道徳「生命を救う仕事 勤労・社会への奉仕 お父さんは救命救急士」についての指導・助言

①ツールを活用する先にある目標は、児童が聞く主体になることと、考えるプロセスそのものに目を向け思考の過程をできるだけ自覚できるようにすることである。

②深く考えさせるための7つの鍵を活用する。(事例を通じた掘り下げのポイント、魔法の言葉の役割)

(3) 平成27年9月 p4c研修会 宮城教育大学 教育復興支援センター 特任教授 堀越清治先生 ご講話  
演題「特別の教科 道徳におけるp4c活用の可能性を探る」

①p4cを道徳の時間に取り入れている事例について(本校の取組についてのご指導)

②道徳の実践を通しての成果について

(4) 平成27年9月 p4c研修会 宮城教育大学 教育復興支援センター 特任教授 堀越清治先生  
p4c実践授業についての協議とご指導

・6の1担任 佐々木順子教諭 道徳 生命の尊重「命をいとおしむとはどういうことか」

・6の2担任 大沼 忠邦教諭 道徳 生命の尊重「命の代わりに残したいものがあるとしたら何か」

①授業の振り返り・・・道徳のプレ学習(予習)について、八本松小の学習パターンについて

②国際フォーラムの打合せ・・・p4c実践のビデオ編集について、プレゼンテーションの仕方について

(5) 平成27年12月 p4c研修会 宮城教育大学 教育復興支援センター 特任教授 堀越清治先生  
演題「p4cを取り入れた 特別の教科 道徳における指導計画作成のポイントについて」

①道徳のねらいは、より良く生きるために生き方を考えさせることである。

②3分の2は副読本で、3分の1は地域の資料で指導計画を立てる。

③授業の展開後は自己内対話を全体で話し合う。価値内容を高めてから振り返りをさせる。

④「考え、議論する」前の事前学習(予習)が大事である。

(6) 平成28年1月 p4c研修会 宮城教育大学 教授 田端健人先生

p4c実践授業についての協議と指導 4の1 道徳 信頼と友情「友情は何のためにあるのか」

①授業の振り返り・・・児童の変容について、思考を掘り下げる「第二の問い」について

②今後のp4cの展望・・・基礎基本の統一、来年度の年間スケジュール、第2回国際フォーラムの内容  
学術的発信、ファシリテーターとしてのポイント等

2 各教科・領域等の指導計画に「探求の対話(p4c)」を取り入れた授業実践を積み重ね、新しい学びの形を提案しながら、成果(児童の変容)と課題を検証する。

(1) 校内研修への位置付け

①年度当初に転入職員対象の研修

②p4cハワイとの交流など校内での授業公開

③国際フォーラム・仙台市教育課題発表会への参加等

(2) 校内研究推進委員会での確認事項

①p4c実践の成果を共有し、学級開きを皮切りに様々な場面での活用が可能であることについて

②高学年の国語「読むこと」の領域において、「生きること」との関連で問いを立てる実践を試み、単元指導計画のどの段階で取り入れることが効果的であるかについて

③道徳における指導過程のパターン化について

④リンク・リング（個人用思考ツールキット）の活用について

⑤指導者側の課題を把握する教師用アンケート調査について

⑥子どもの視点から捉えた「探求の対話（p4c）」の効果を探るための児童への聞き取り、記述式アンケートの実施について

3 宮城県や仙台市内各学校、各教員への周知・啓発を図ることを目的に、実践の成果や伝講する場を設定し、実践協力者・研究協力者を増やすことで、仙台市独自の新しい教育プログラム「対話を通した生き方教育」の開発を推進する。

(1) 平成27年10月18日 「第1回国際フォーラム」 於：仙台市博物館

・授業者 砂金みどり教諭：八本松小卒業生によるp4c授業公開（問い「自由とは何か」）

・実践発表 砂金みどり教諭：八本松小学校の実践事例を発表

・パネリスト 高橋 隆子校長：パネルディスカッションにおいて八本松小の取組を紹介

(2) 平成28年12月24日 「仙台市教育課題研究発表会」 於：仙台市教育センター

・発表者 高橋 佳子教諭「子どもの視点から捉えた探求の対話（p4c）」

・発表者 砂金みどり教諭「探求の対話（p4c）を取り入れた道徳の授業」

4 県内の研究校を視察し、授業実践・教員同士の研修機会、情報共有を通して、仙台市の教育と宮城県の教育に貢献する。

(1) 平成27年11月 研究校視察（宮城県白石市立第一小学校）

①p4cの授業公開 2年生 プレーンバナナ方式 問い「ドーナツの穴はなぜあるのか」

②校内研究 算数の授業公開 4年生「四角形の面積の求め方」

(2) 平成28年1月 研究校視察（宮城県白石市立福岡小学校）

①p4cの授業公開 4年生 プレーンバナナ方式 問い「もし宝くじが当たったら何に使うか」

②公開授業の検討会・・・p4c白石の取組について、p4cの可能性について

5 「誰でも始められる探求の対話（p4c）」を目指して、教材、教具、資料等を開発し、その活用方法を探る。

(1) 教材・教具の作成

①コミュニティボールの作成

・第1回目の「探求の対話（p4c）」では、必須アイテムであるコミュニティボールを作成し、ボールの使い方を通してp4cのルールを確認する。

②児童用リンク・リング（個人用思考ツールキット）の作成

・児童一人一人に言語を通して思考を深めることができるカード集を持たせ、意味を問う、理由を問う、例を示す場面などで活用する。

③p4c指導案、自由に使えるワークシート（問い用、授業用など）、指導者が記録する簡易授業メモ、学年毎の保存用ファイル、6年間の学びを蓄積するポートフォリオファイルについての提案

・指導者の課題を受け、「探求の対話（p4c）」を実施するに当たっての負担意識を解消するための試みとして準備し、その活用を図る。

(2) 研究集録の作成

①国際フォーラムで紹介した実践事例「6年生 p4cを活用した道徳の授業」ならびに仙台市教育課題研究発表会の発表内容をDVDに集録し、今年度の研究の振り返りと今後の広報活動（「誰でも始められる探求の対話（p4c）」）に活用する。

6 今年度の成果と課題

(1) 成果（児童と指導者の変容）

①学校生活上の問題が発生した場面において、児童自らが解決策として「探求の対話（p4c）」の手法を用いて話し合いを行ったケースは、子ども自身がp4cの可能性を認識していることの表れである。

②生徒指導上の困難を抱える学級で、p4cを取り入れた道徳の授業を継続的に行ったところ、自分の気持ちを素直に伝えたり、友達の話を聞いたりする態度が確実に身に付き、課題を解消することにつながった。

③p4cによる学習を経験した子どもたちは、思考する過程を楽しみ、より深く考える態度が育ちつつある。

④児童も教師も『「探求の対話」は「生きること」と関わる』ことであると経験的に実感することができた。

(2) 課題

①「探求の対話（p4c）」の成果や教育的効果を共有し、市内・県内の共感者を増やしなが、研究を推進するための研修会を充実させていく必要がある。

②仙台の教育復興に寄与すべく、p4cの実践を通して被災した子どもたちの心の支援「対話を通した生き方教育」を更に継続していきたい。